

オリジナリティ考

Originality

取締役

小辻 康彦

Yasuhiko Kotsuji



グローバル化の進展の中で、直接海外での見聞を広める機会が増えてきている。言語の違いはもとより、気候、宗教、風習等々、書物等から得られる間接的な情報とは別の、新鮮な体験は何事にも変えがたい。

日本人とは何か、日本人らしさとは何かと考えると同時に、それぞれの地域とそこに生活する個々の人たちの「らしさ」とは何か、その「らしさ」を取り除いてしまった均質の世界とはどのようなものか、実に味気ない、刺激の無い世界ではないか等と書生のような事を考える機会でもある。

これらの「らしさ」を持った個々人・地域の中で縦横無尽に展開されるグローバルな経済活動は、マクロに言えば国際標準の展開活動であるということが言える。このことは国際共通語同様、個々の地域の繁栄を支える国際的な共通基盤として重要な要素であることは論を待たない。

経済という側面から見ると、世界レベルで個を繋ぐ、地域を繋ぐ分野での技術の発展が過去1世紀の特徴とも言える。

これからの時代を鳥瞰すると、繋ぐという要素と並行し、個・地域の尊重、個・地域のオリジナリティという軸を維持・育成し、活かし、多様性の時代を生き生きとしたものにするという方向に技術が利用され、進化するのではないかと思う。

行過ぎた標準化・平準化は個々のオリジナリティという軸の維持を阻害し、均質化を強化する要素を秘めているという側面を持つ。

「グローバル最適とローカル最適の調和」即ち「グローカル化」が経済発展の上で重要な要素の一つであるとすれば、製品・システ

ム・サービスを提供する側として、技術開発に留まらず全サプライチェーンの各工程の中でこのグローバル化を意識する必要がある。

更に言えば、意識の上ではローカル（オリジナリティ）をより強く持つべきではないかと思う。

当社の海外工場の視察に行かれたお客様から「日本の生産方式と現地の強みが上手くミックスされた良い工場ですね」との評価を頂いた。

このような評価は事の外嬉しい。そこで働く現地の方々の笑顔さえも目に浮かぶ思いがする。

個々人、或いはその地域のオリジナリティを維持する技術、グローバル化を支える技術、言い換えれば「らしさ」の「軸」を維持・育成する技術、こういった領域でオリジナリティのある技術が生かされる事を切に望む。

オリジナリティのある技術による、オリジナリティを持つ人の為の、オリジナリティある社会の実現。

技術という側面から見ても全く同様で、その集団の中で、技術標準の共有というグローバルな基本の上に、個人のスキルというオリジナルな軸を組み合わせ、環境の変化に対する対応力を維持しつつ、常に富士通テンの基本をしっかりと持った集団を時代が求めている。

その為にも、人・地域・地球に対する興味・見識をより積極的に培ってゆく必要を強く感じざるを得ない。